

# 生産現場の衛生活動

小坂宮林署 長 瀬 茂 一  
坂 田 金 光

## 1. はじめに

私たちは、誰しも幸福な生活を望んでいる。この幸福な生活を送るために必要な条件には、どんなことがあるだろうか。この条件は、人それぞれによって異なるかもしれない。しかし、一つだけ共通していえることは、「健康であること」で、これは基本的条件として反対する人はだれもないであろう。職場でも、健康診断、健康管理活動を行っているが、同時に私たち自身が自分の健康に関心を持ち、職場や家庭での毎日のスケジュールの中に健康作りのプランを作り、健康管理について53年度（4～12月）を反省し、実態をまとめたものである。

## 2. 目標の設定

53年4月の入山時に、52年度の各人の病気休暇に対する分析と反省を行い、53年度の衛生目標を下記の2点に絞って設定した。

- (1) 職場の長（主任）は、現場における「健康管理」の最高責任者である。
- (2) 職場の健康は、現場で働く私たち自身の手で。

生産事業を執行するに当たり、安全衛生活動を行う責任者と、安全活動が、下からの自覚にあるように、衛生活動も同じことと思料される。

衛生管理規程に、衛生管理者の職務として、現場巡視、衛生教育、病気の統計などがあり、今回病気休暇の統計を中心に作表し、今後、各人の健康管理のデータとして活用する。

表－1 榎谷事業所の勤務記録表（自53.4月～至53.12月）

定員内外別	職種	人数	勤務	年休	特休	夏休	レノー	病休
定員内	普通職	5名	921	79	23	25		7
	技能職	4名	807	49	18	20		3
	計	9名	1,728	128	41	45		10
定員外	基幹職員	20名	3,669	337	90	80	115	120
	〃	(炊事手) 2名	317	20	6	8		0
	定期	(炊事手) 1名	177	13	2	2		4
	計	23名	4,163	370	98	90	115	124
	合計	32名	5,891	498	139	135	115	134

表-2 職種別1人当り病気休暇日数表(自S 53.4~至S 53.12)

定員内	普通職	1.5日	備考 基幹職員の平均は6日であった。
	技能職	0.8日	
	計	1.1日	
定員外	基幹職員	6.0日	
	“(炊事手)”	0日	
	定期(“ ”)	4.0日	
	計	5.4日	
	合計	4.1日	

表-3 病気休暇の連続休暇日数表

20日	1件	20日	15%	備考 1. 長期病気休暇は1件のみ。 2. 1日の休暇によって、50%は回復している。
4日	1件	4日	3%	
3日	5件	15日	11%	
2日	13件	26日	19%	
1日	69件	69日	52%	
計	89件	134日	100%	

表-4 1人当り病気休暇の累計表

27日	1名	27日	20%	備考 この4名で83日になり、62%を占めている。
25日	1名	25日	19%	
19日	1名	19日	14%	
12日	1名	12日	9%	
6日	2名	12日	9%	
5日	3名	15日	11%	
4日	3名	12日	9%	
3日	1名	3日	2%	
2日	3名	6日	5%	
1日	3名	3日	2%	
0日	13名	0日	0%	} 休暇をとらなかった者は全員の41%であった。
計	32名	134日	100%	

表-5 病名別病気休暇日数表

1	腰痛	32日	24%	備考 1. 腰痛の占める割合が非常に多い。
2	風邪	22日	16%	
3	坐骨神経痛	20日	15%	
4	歯痛	12日	9%	
5	腹痛	12日	9%	
6	皮膚病	10日	8%	
7	尿道結石	7日	5%	
8	関節痛	6日	4%	
9	膀胱炎	5日	4%	
10	眼の炎症	3日	2%	
11	挫傷	3日	2%	
12	高血圧	1日	1%	
13	蓄膿症	1日	1%	
	計	134日	100%	

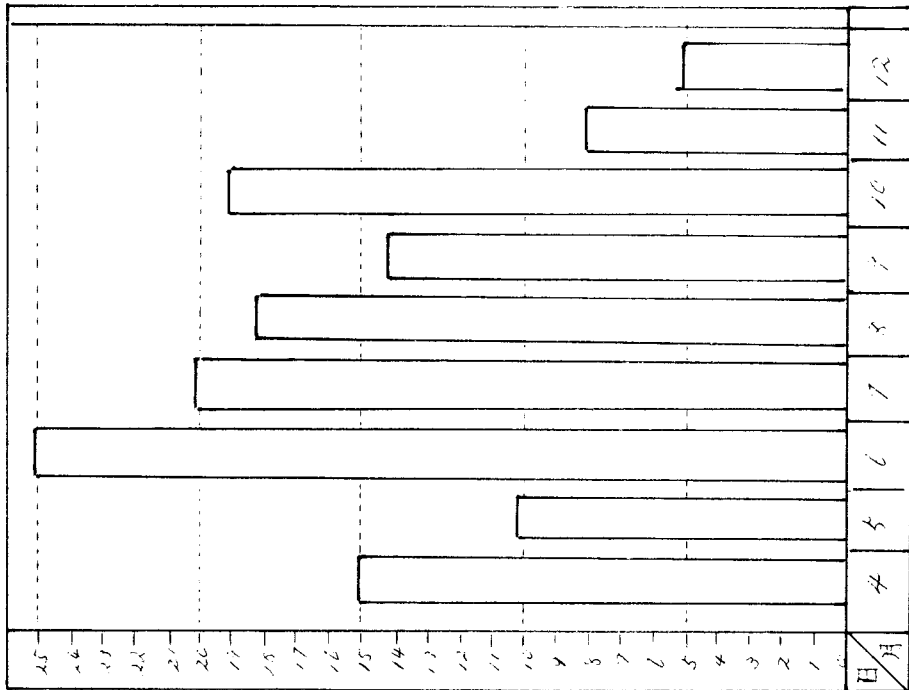
腰痛、風邪月別病気休暇表を比較してみると、8～9月に腰痛が多く、4,10～11月に風邪が多いので、健康管理は季節的に指導する必要がある。

### 3. 衛生活動の成果

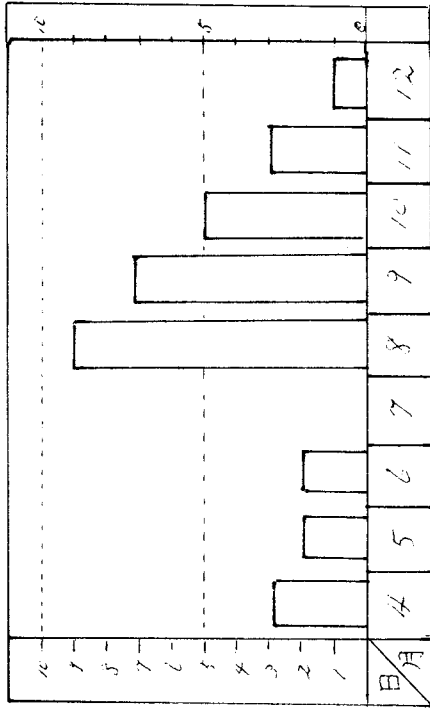
- (1) 職場の中に、健康に対する認識が向上した。
- (2) 長期病欠休暇（8日以上）が1件ですんだ。
- (3) 15万時間の無災害を達成した。
- (4) 3年連続無災害の樹立ができた。

未来に希望をもとめ、安全作業に心掛け、健康で明朗な職場作りに努め、安全衛生活動をより高めることを念願してやまない。

病氣休暇月別休暇日数表



腰痛月別病氣休暇日数



風邪月別病氣休暇日数

